

3

A wood carving craft man Geppetto lived alone for a long time.

“If there were a child, I would never have had to feel as sad as this… Oh, I have an idea!”

Mister Geppetto started carving a wooden block, and shaped it into the shape of child.

“This boy’s name is going to be… Hm, ‘Pinocchio’ sounds great!”

He continued carving it, and soon, Pinocchio’s head was completed very handsomely with big eyes and a tall nose.

Then, Mister Geppetto felt like Pinocchio had smiled at him, so he spoke gently to Pinocchio.

“No no, it’s not done yet so don't move.”



5

Then...

"Hehehe, but it tickles so much, father."

Astonishingly, Pinocchio smiled and spoke to Mister Geppetto.

"What! Is it you who just spoke?"

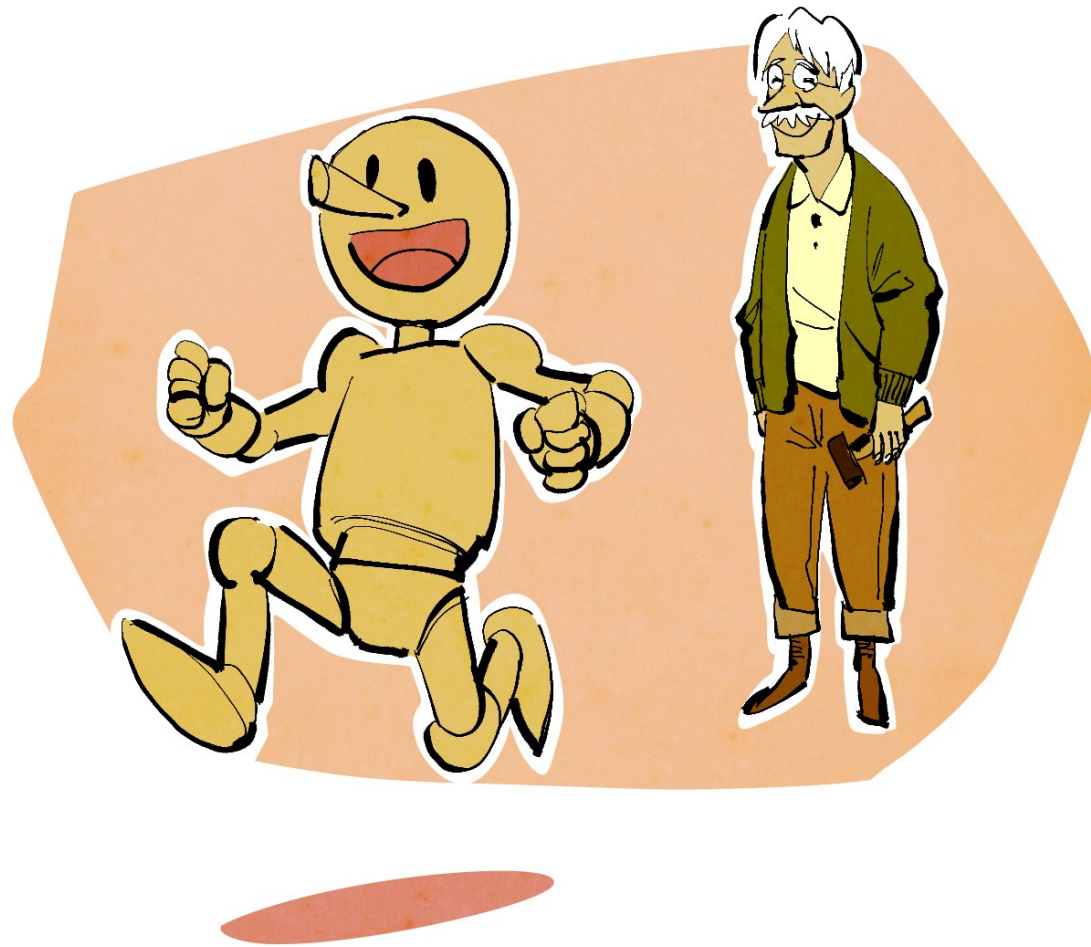
"That's right it's me, father. Hey, can you quickly make my body as well?"

Mister Geppetto was so shocked that he dropped a chisel that was in his hand.

After, Mister Geppetto completed carving Pinocchio's body part very quickly.

"Hooray! Hooray! Father, I can walk!"

Pinocchio ran around the house very happily.



きぼりしょくにんの ゼペットじいさんは、ながいあいだ、ひとりぼっちで くらしていました。

「うちにも こどもが いれば、さみしく かんじることも ないんだろうなあ・・・そうだ！」

ゼペットじいさんは、きを けずって、こどもの にんぎょうを つくりはじめました。

「このこの なまえは・・・よし、『ピノキオ』に しよう！」

やがて ほりあがってきた ピノキオの かおは、めが おおきくて、はなの たかい、なかなか ハンサムに 仕上がりました。

ふと なんだか、ピノキオが ほほえんだような きがしたので、ゼペットじいさんは ピノキオに はなしかけました。

「こらこら。まだ できていないんだから、うごいちゃ だめだよ」



すると・・

「ふふふ、だって くすぐったいんだもん。おとうさん」

なんと ピノキオが、えがおで ことばを はなしたのです。

「なに！いま しゃべったのは、おまえかい！？」

「そうだよ、おとうさん。

ねえ、はやく ぼくの からだも つくってよ」

ゼペットじいさんは、あまりの おどろきに、  
てに もっていた ノミを おとしてしまいました。

それから ゼペットじいさんは、  
すぐに ピノキオの からだを ほりあげました。

「わーい！わーい！おとうさん、あるけるんだよ、ぼく！」

ピノキオは うれしそうに、  
いえの なかを はしりまわりました。

